

JA山口厚生連のご紹介

● 周東総合病院

● 長門総合病院

● 小郡第一総合病院



医療の本質を追求し続けます。
信頼される病院づくりのため
地域と共に歩む





JA山口厚生連のご紹介

CONTENTS



- 1-2 山口県厚生農業協同組合連合会について
- 3 厚生連病院位置図
- 4 JAグループについて
- 6-10 周東総合病院(柳井市)
- 11-14 長門総合病院(長門市)
- 15-18 小郡第一総合病院(山口市)
- 19 JA山口厚生連の奨学金貸与制度
- 20 JA山口厚生連の奨学金返還支援制度

1 厚生連(厚生農業協同組合連合会)の成り立ち

～困窮した地域を助けるために立ち上がりました～

JAの厚生事業は、産業組合法(明治33年制定)のもと、大正8年11月に、窮乏している農村地域の無医地区の解消と低廉な医療供給を目的として、島根県鹿足郡青原村(現・津和野町)の信用購買販売生産組合が医療事業を兼営したのがはじまりです。その後この運動は全国的に広がり、昭和23年農協法のもとで厚生連が継承しました。

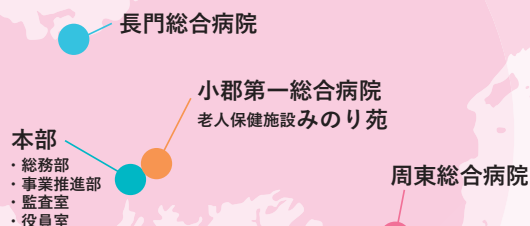


2 公的医療機関としての厚生連

～公的医療機関※として農山村地域の健康で豊かな暮らしを応援しています～

昭和26年「全国厚生農業協同組合連合会の会員である厚生農業協同組合連合会」は、医療法第31条に規定する公的医療機関の開設者として厚生大臣から指定を受けて以来、特に農山村地域の保健・医療・高齢者福祉事業を積極的に推進し、地域に貢献しています。

※公的医療機関は、戦後、医療機関の計画的整備を図るにあたり、国民に必要な医療を確保するとともに、医療の向上を進めるための中核としての役割を担うものとされ、また、公的医療機関は、医療のみならず保健、予防、医療関係者の養成、へき地における医療等一般の医療機関に常に期待することのできない業務を積極的に行い、これらを一体的に運営するという特徴を有する。



山口県内の公的医療機関一覧

下関保健医療圏

- 下関市立市民病院
- 山口県済生会豊浦病院
- 下関市立豊田中央病院
- 山口県済生会下関総合病院
- 国立病院機構関門医療センター
- 独立行政法人地域医療機能推進機構 下関医療センター

宇部・小野田保健医療圏

- 山口県立こころの医療センター
- 山陽小野田市民病院
- 美祢市立病院
- 美祢市立美東病院
- 小野田赤十字病院
- 山口労災病院
- 国立病院機構山口宇部医療センター
- 山口大学医学部附属病院
- 医療法人社団宇部興産中央病院

長門保健医療圏

- 長門総合病院

萩保健医療圏

- 萩市民病院

山口・防府保健医療圏

- 山口県立総合医療センター
- 総合病院山口赤十字病院
- 済生会山口総合病院
- 済生会湯田温泉病院
- 小郡第一総合病院

周南保健医療圏

- 光市立大和総合病院
- 光市立光総合病院
- 周南市立新南陽市民病院
- 独立行政法人地域医療機能推進機構 徳山中央病院
- オープンシステム徳山医師会病院

柳井保健医療圏

- 周防大島町立大島病院
- 周防大島町立東和病院
- 周東総合病院
- 国立病院機構柳井医療センター

岩国保健医療圏

- 岩国市立錦中央病院
- 岩国市立美和病院
- 国立病院機構岩国医療センター
- 岩国市医療センター医師会病院



周東総合病院



長門総合病院



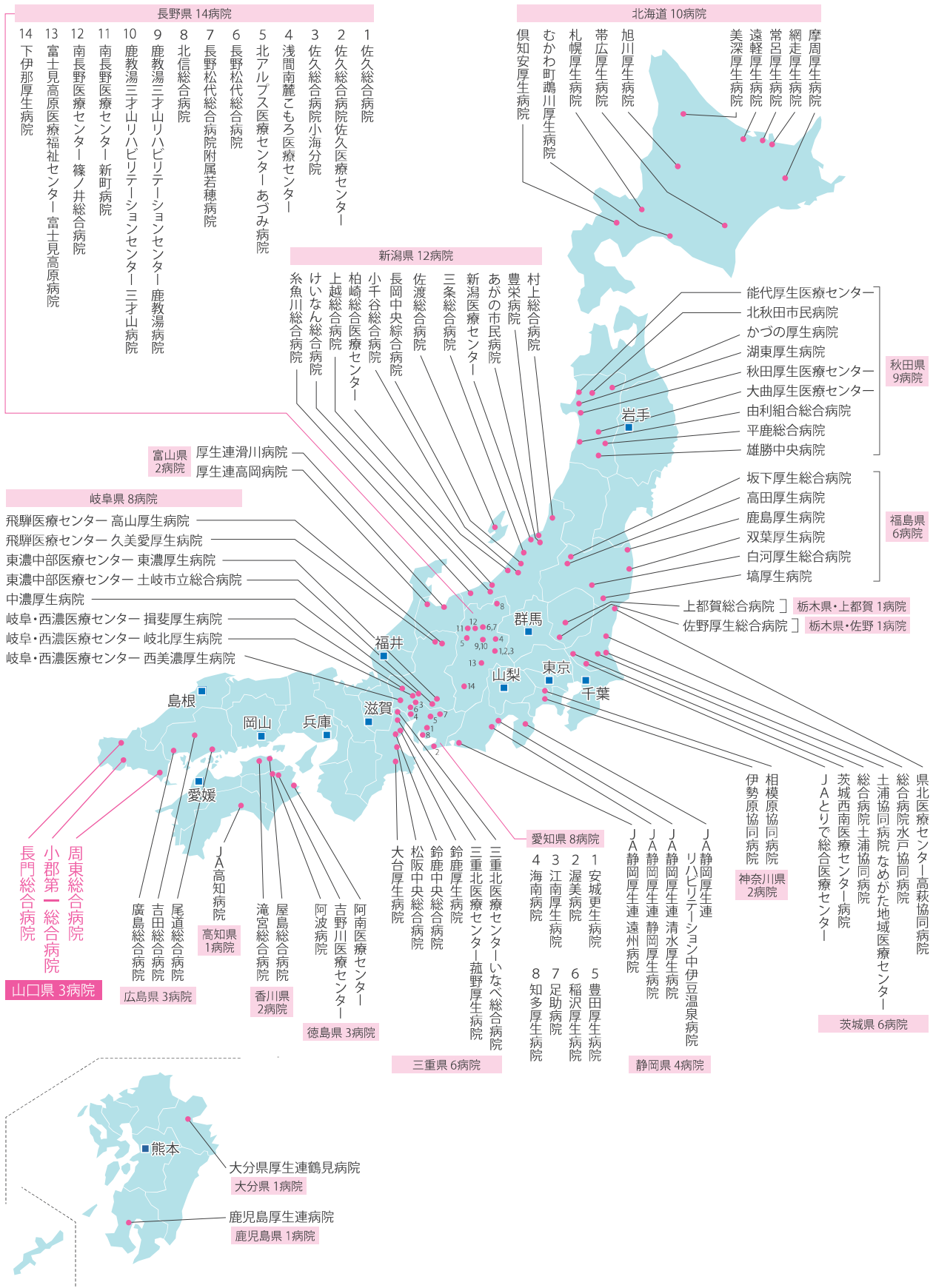
小郡第一総合病院

厚生連病院位置図 全国計104病院

(注)：令和4年4月1日現在

■印 健康管理厚生連

厚生連未設置府県は計15府県

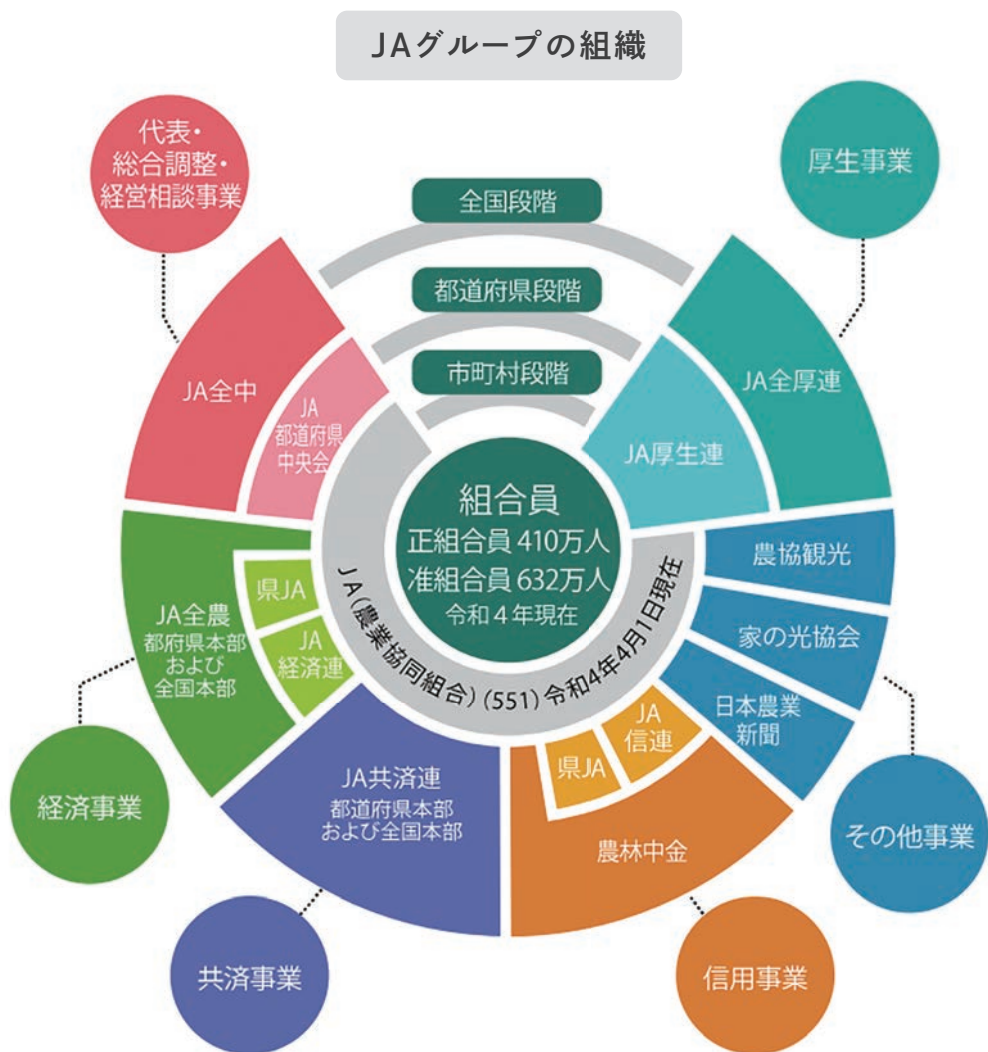


～私たちは人と人が助け合う「協同組合」の仲間です～

JA（農業協同組合）とは農業者のための協同組合です。JAおよび都道府県段階や全国段階の農協連合会、農協中央会および農林中央金庫を含め「JAグループ」と呼んでいます。

JAはさまざまな事業を総合的に行っていますが、それぞれの事業を効率的・効果的に事業展開を図るため、指導・経済・信用・共済などの事業ごとに、JAとJA連合会等による事業組織が形づくられています。

その中で、JA厚生連は、保健（健康増進）・医療・高齢者福祉事業を担い、組合員および地域住民の生活を支えています。全国段階はJA全厚連（全国厚生農業協同組合連合会）、都道府県段階はJA厚生連（厚生農業協同組合連合会）が厚生事業を担っています。



病院のご紹介

6-10 周東総合病院



11-14 長門総合病院



15-18 小郡第一総合病院





病院概要

周東総合病院は、波静かな瀬戸内の海と緑の山々に囲まれた山口県柳井市の丘陵の地にあります。

当院は、360床の急性期病院で、平成20年5月末に増改築工事が終了し、新病院が完成いたしました。新病院からの眺望はすばらしく、療養環境を始めとするアメニティは飛躍的に改善されました。

また、二次救急病院、地域医療支援病院、地域がん診療拠点病院、臨床研修病院、地域災害医療拠点病院に指定されており、柳井医療圏の基幹病院として「地域の皆様が安心して健康的に過ごせる地域づくり」の役割を担っています。



標榜科 (23科)

内科/精神科/脳神経内科/消化器内科/
循環器内科/血液内科/小児科/外科/
整形外科/脳神経外科/心臓血管外科/
皮膚科/泌尿器科/産婦人科/眼科/
麻酔科/耳鼻咽喉科/リハビリテーション科/
放射線科/歯科口腔外科/乳腺外科/
消化器外科/病理診断科

病床数 (360床)

- 一般病床274床
- 地域包括ケア病床86床

取得資格等

- 日本病院薬剤師会
がん薬物療法認定薬剤師
病院薬学認定薬剤師
- 日本緩和医療薬学会
緩和薬物療法認定薬剤師
- 日本糖尿病療養指導士
- 山口県肝疾患コーディネーター
- 認定実務実習指導薬剤師

薬 剤 科 紹 介



薬剤科長 山本 和宜

薬剤科長より

当院は柳井医療圏を支える基幹病院で、ここで働く薬剤師も様々なスキルが求められます。そのためにも研修会や勉強会への積極的な参加や、専門・認定薬剤師の資格習得への支援をしています。また、患者さんにより良い医療を提供するには、コミュニケーションスキルが重要であり、専門性と人間性のバランスが一番と考え教育しています。病棟薬剤業務等、薬剤師に求められる様々な要望に応えるため、増員や設備の充実を図り、働きやすい職場環境をつくれます。



薬剤師 14名

薬剤助手 3名

事務 1名

主な業務

内服薬調剤業務

富士通の電子カルテシステムを利用し、処方だけでなく検査値等も確認しています。

また、部門システム (TOSHO) にて禁忌や重複チェックなど行うことで、効率的かつ安全に調剤業務を行っています。



主な業務

持参薬鑑別業務

入院時持参薬の鑑別はすべて薬剤師が行います。現在は後発医薬品が多くなり、看護師だけでなく医師も名称だけで判断できないことがあります。外来では手術前の患者さんの常用薬の鑑別を行っています。



注射薬調剤業務

投与量や投与ルート、配合変化等ダブルチェックにて注射薬を払い出しています。注射処方せんに検査値や投与日数を表示し、監査業務の効率化を図っています。



抗がん剤・ 注射剤無菌調製業務

抗がん剤だけでなく抗リウマチ薬等を、無菌的に混合調製しています。抗がん剤はアイソレーターで、それ以外は安全キャビネットにて調剤者と監査者の2名体制で無菌調製を行っています。



病棟業務

当院は8病棟あり、一般病棟が6病棟、地域包括ケア病棟は2病棟となっております。各病棟に薬剤師を配置し、病棟薬剤業務実施加算取得ができるよう増員を予定しております。

薬剤管理指導だけでなく、医師や病棟看護師と連携し、持参薬確認、処方オーダー支援、抗菌薬や疼痛コントロール等の薬物療法提案も行っています。



チーム医療

病棟カンファレンス



多職種が集まって、患者さんの情報を共有し、意見交換を行います。病棟によって参加する職種は異なりますが、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士が参加することが多いです。当院ではここ数年で薬剤師がカンファレンスへ参加する病棟が増えました。薬剤師は、患者さんの服薬コンプライアンス向上や、より良い処方提案に努めています。

感染制御チーム (ICT) 抗菌薬適正使用 支援チーム (AST)

毎週病棟や各部署の環境ラウンドを行い、耐性菌検出患者の対策を検討するなど、日々院内の感染伝播を抑制するために活躍しています。薬剤師の主な役割は、抗菌薬の適正使用のための処方提案です。

がん化学療法

がん薬物療法認定薬剤師を中心に、レジメンの作成から化学療法委員会の審査、患者さんへの説明やレジメンの管理などを行っています。

緩和ケアチーム

麻薬を施用している患者のラウンドを毎週行っています。疼痛コントロールに関しては薬剤師が提案する場面が多く、チームの中心メンバーとして活躍しています。

その他



糖尿病支援チームや輸血療法委員会、OLSチーム等、多数のチーム医療に薬剤師が参加し活躍しています。

Exchange event

勉強会・研修会だけでなく、楽しいイベントもたくさんあります。JA山口厚生連は3つの病院（小郡第一総合病院、長門総合病院、周東総合病院）がありますので、各病院だけでなく3病院が合同で研修や行事を行うのも特徴です。



金魚ちょうちん祭り



病院祭



病院対抗野球大会



災害訓練



合同情報交換会



救急事例検討会

薬剤科見学も随時対応しておりますので、ぜひお越しください。

周東総合病院HP ▶ <https://shuto-hp.jp/>



周東総合病院で働く若手薬剤師の1日

入職3年目の野村と申します。私は、大学卒業後、地元周辺での就職を考え、いくつかの病院や薬局を見学するなかで、当院の病院見学へ足を運びました。アットホームな雰囲気や幅広い業務に触れることに魅力を感じて入職を決意し、今に至ります。現在は、脳神経外科・泌尿器科・循環器内科病棟を先輩と一緒に担当しています。まだまだ、未熟な点も多いですが、日々奮闘しています！

少しでも皆さんに当院で働くイメージをお伝えするために、私自身のある1日をご紹介します！



8:25

朝礼



8:30

内服薬調剤業務

この日は午前の調剤室当番です。ミスのないよう集中して監査します。調剤業務（内服薬、注射薬）は交代制です。注射薬の調剤業務では抗がん剤の混注も並行して行います。



調剤業務は薬剤師の基本です。適切な投与量、用法用量かどうかをしっかりと確認します！



13:00

お昼休み



13:50

病棟業務

新規入院患者さんの持参薬を確認し、初回面談へ。常用薬やアレルギー歴、コンプライアンス等の確認を行い、看護師へ情報をフィードバックします。合間を縫って、他の患者さんの服薬指導も行います。

抗がん剤混注の様子です。当日の検査値を確認して、必要に応じて疑義照会も行います。



15:00

多職種合同心不全カンファレンス

循環器内科病棟では、1週間に1度カンファレンスを行っています。医師・薬剤師・看護師・理学療法士が参加し対象となった患者さんについて意見を交わします。他の病棟でも同様にカンファレンスを行っています。



17:30

帰宅

服薬指導の記録を書き終えて、17:30～18:00頃に帰ることが多いです。もちろん定時17時ピッタリに帰ることもあります！

3年間働いて、一通り仕事には慣れてきたつもりですが、先輩薬剤師の方々に指導してもらいながらまだまだ日々勉強です。

しかしながら、1年目の時には1人では対応できなかった問い合わせに対応できるようになったり、医師や看護師から「薬剤師さん」ではなく「野村薬剤師さん」と呼ばれるようになったりと、少しずつやりがいを感じる瞬間が増えてきたように思います。また、ワークライフバランスのとれた職場なので、皆趣味や家庭と仕事を両立しています。

少しでも当院薬剤科に興味をもたれた方は、ぜひお気軽に病院見学にお越し下さい！





病院概要

当院は昭和19年に農業会長門病院として設立され、昭和23年に山口県厚生連に移管、昭和47年に現在地へ移転しました。山口県厚生連は県内の3カ所（柳井市・山口市・長門市）に病院を有しており、当院はその一つです。

平成20年に山口県から長門医療圏のがん専門病院（がん診療連携推進病院）に指定され、平成27年4月には厚労省により、長門医療圏のがん専門病院（地域がん診療病院）の認定を受け、この地域のがん診療の推進を担うこととなりました。

また、県内に4ヶ所ある第2種感染症指定病院の一つで、長門・萩地区分の8床を保有しています。

標榜科 (16科)

内科 / 脳神経内科 / 小児科 / 外科 / 整形外科 / 脳神経外科 / 産婦人科 / 耳鼻咽喉科 / 眼科 / 皮膚科 / 泌尿器科 / 放射線科 / リハビリテーション科 / リウマチ科 / 麻酔科 / 循環器内科 / 病理診断科

病床数 (260床)

- 一般病床159床
- 地域包括ケア病床40床
- 療養病床53床
- 感染症病床8床

薬剤科業務実績 (令和4年度)

- 処方箋枚数 外来:12,343枚
院外:71,454枚(85.2%)
入院:30,813枚
- 薬剤管理指導料 3,696件(I,II)
- 退院時薬剤情報管理指導料 568件
- 無菌調製処理加算 1,963件
- 特定薬剤治療管理料(TDM) 121件
など

薬 剤 科 紹 介



薬剤科長 高田 英之

薬剤科長より

将来、どんな薬剤師になりたいか、患者さんのために何ができるか考え、患者さんから多くのことを教えていただきながら学んでいるという謙虚な気持ちを持って対応することが医療人としての成長に繋がるように思います。

長門地域の基幹病院として、地域の方々に「信頼される病院」の一員として、地域に合った良質な医療を受けられる社会を次世代へ引き継ぐため、病院全体で取り組んでいます。



薬剤科の 理念と目標

「患者様のQOL（生活の質）を改善・継続するため、適切で有効で安全な薬物療法を提供し、チーム医療においてその機能を発揮する」の理念の基、院内のすべてのスタッフ、さらに他の医療機関や保険調剤薬局と連携し、より良い薬物療法の提供に取り組んでいます。



薬剤師 13名

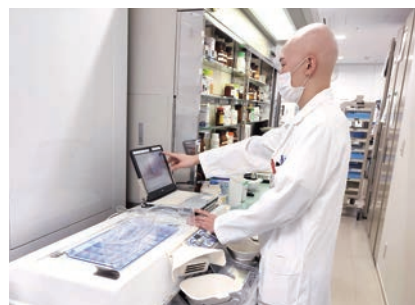
薬剤助手 4名

事務 1名

主 な 業 務

調剤業務

院外処方箋を発行していますので、調剤の大半は入院処方です。検査値、体重などを参照し調剤・監査・処方提案を行っています。調剤支援システム、錠剤分包機、散剤分包機、軟膏混合機などで調剤業務の軽減を図っています。



主な業務

注射調剤業務

配合変化、投与期間・間隔、投与ルートの確認を行いながら、注射薬の払い出しを行っています。注射薬払出機を導入し注射調剤の業務時間短縮と正確性向上を図っています。



製剤業務

TPN、特殊点眼薬、吸入液、抗がん剤などを、クリーンベンチもしくは安全キャビネットで調整しています。

特に、抗がん剤の調製には「化学療法 与薬・調製管理表」を使い、細心の注意を払っています。

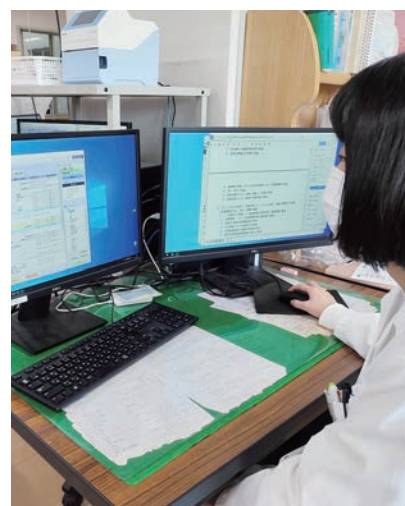


病棟業務

一般病棟には薬剤師を厚く配置し、服薬指導を中心に対人業務の充実に力を入れています。

患者様のみならず、医師・看護師などの他職種からも厚い信頼を得ており、チーム医療に貢献しています。

地域包括ケア病床、療養病床においても担当薬剤師を設け、薬剤関連業務の中心的役割を担っています。



チーム医療 すべての薬剤師がチーム医療に参画しています

がん化学療法

(外来化学療法加算 1)

委員会開催 (年3回)、
レジメン管理・登録 (レジメン登録数: 513件)

緩和ケア

(がん性疼痛緩和指導管理料)

委員会開催 (月1回)、
当院オリジナル「緩和ケアマニュアル」の作成・更新、
緩和ケアチーム病棟回診 (週1回)

感染対策

(感染防止対策加算 1、抗菌薬適正使用支援加算)

ICT・AST院内ラウンド (週1回)、
委員会開催 (月1回)、
抗菌薬の使用状況・分析、
適正使用の推進

褥瘡

委員会開催 (月1回)

輸血療法

(輸血管管理料I)

委員会開催 (月1回)

栄養サポート

委員会開催 (月1回)

糖尿病療養指導

(糖尿病透析予防指導管理料)

委員会開催 (月1回)、
糖尿病教室 (随時)、
糖尿病公開講座 (年1回)



その他の業務

DI、TDM、薬剤鑑別、医薬品情報Web検索システムメンテナンスなど……。

Exchange event



ながと市民講座



役員親睦球技大会



病院対抗野球大会

長門地域の基幹病院として、地域の方々に
「信頼される病院」を目指し一層努力して参ります。



病院理念

1. 患者さまに尽くすことを、私達の医療の基本とします。
2. 私達は常に医学知識と技術の修得に励み、患者さまに安全で最高の医療を提供します。

病院概要

当院は山口市南部の地域中核病院で総合病院としての機能を有し、急性期中心の医療を担っています。さらに、得意とする専門診療科である整形外科においては毎年1000例以上の手術症例があります。手外科、マイクロサージャリー、再建外科の領域では「腕神経叢麻痺」治療の最先端施設として国内有数の治療実績があり全国各地から手術目的の患者様が受診されます。

人工関節手術においても県内でトップレベルの症例数であり、手術症例数は年間200症例以上あります。2010年に開設された人工関節センターには、手術を希望される多くの患者様が県内の広い範囲から来院されています。

また、整形外科領域において、外国人医師が研修を行うことのできる施設として国から指定されており、多くの外国人医師が当院で研修を行っています。

標榜科（16科）

消化器内科/循環器内科/糖尿病・血液内科/
呼吸器内科/脳神経内科/小児科/外科/
整形外科/脳神経外科/泌尿器科/産婦人科/
眼科/耳鼻咽喉科/麻酔科/リハビリテーション科/
病理診断科

センター機能

- 総合健診センター
- 人工関節センター
- 日帰り手術センター
- 人工透析センター

関連施設

- 訪問看護ステーション
- 老人保健施設みのり苑
- 居住介護支援事務所

薬 剤 科 紹 介



薬剤科長 小磯 克己

薬剤科長より

対物中心の業務から対人中心の業務へ転換することが求められて以降、我々薬剤師は病棟活動に重きを置き、従来の薬剤管理指導業務はもちろんのこと、参画するチーム医療において、薬学的視点から処方提案・処方設計支援に関与し、治療効果の改善や安全性確保のために多職種と連携してきました。今後も、他の医療スタッフと緊密に連携し、患者さまの治療満足度の向上に貢献できるよう、スタッフ一丸となって取り組んで参ります。



薬剤師 7名

薬剤助手 2名

主な業務

内服薬・外用薬調剤業務

調剤・監査時に体重や検査値を考慮しながら患者さん個別に適切な薬物療法が行われているかを確認します。



主な業務

注射薬調剤業務

投与量・投与ルート、配合変化の確認だけでなく、検査値や投与日数に制限のある薬剤にも注意して薬剤の払出しを行っています。注射薬自動払い出しシステムを導入しており、病棟ごと、患者さん個別に調剤することができます。



製剤業務

抗がん剤の調製や院内特殊製剤の調製等を行っています。その他にも、手術時に使用する鎮痛薬多剤カクテルや術後鎮痛薬の無菌調製も行っていきます。製剤室には安全キャビネットやクリーンベンチ等、製剤業務に必要な機材が設置されています。



病棟薬剤業務

現在、各病棟に2名の専任薬剤師を配置しており、従来の薬剤管理指導業務だけでなく患者背景及び持参薬の確認や処方設計・提案を行い、他職種との情報共有に努めています。病棟配置薬の使用期限の確認や適正な設置数の提案等も行っています。混合病棟のため薬剤管理指導業務は薬剤師を3グループに分けて分担しています。



手術前面談

薬剤師による術前面談

全身麻酔手術予定患者を対象として、麻酔科診察前に薬剤師が面談を行っています。服用薬、薬剤・食物アレルギーの有無確認等を行い、その情報を電子カルテに入力する形で他のスタッフとの情報共有に努めています。特に、術前に休止する必要のある抗血小板薬や抗凝固薬等の服用情報を把握することは重要で、入院あるいは手術計画の立案に関わることなので確認には注意を払っています。セルフメディケーションの浸透に伴い、一般用医薬品や健康食品・サプリメントを摂取している方も多く、その成分によっては手術に影響を及ぼすものも少なくありません。これらの使用についてはお薬手帳に反映されにくい情報であるため、詳細な聞き取りができるよう心掛けています。



CRC業務

治験業務全般のサポート

CRC(治験コーディネーター)とは、院内での治験業務が円滑に進むよう一般的にサポートする職種で、治験の実施には欠かせない存在です。当院では薬剤師がCRC業務を担っています。当院でのCRCの主な業務には、院内スタッフあるいは治験に参加される被験者への治験内容の説明、被験者から治験への参加同意取得補助、来院・検査スケジュール管理、治験依頼者(製薬メーカー等)対応等があり、多岐にわたります。治験には医師、看護師、その他多くの医療従事者が関わるため、関連部署が緊密に連携することが必須であり、CRCはそのサポートを行いながら治験業務の中心となって活動しています。当院で実施した治験が成功し、医薬品として承認された場合は何物にも代えがたい達成感があります。

チーム医療への関わり

感染対策チーム

院内の環境感染や
抗菌薬使用状況をチェック

感染対策チーム（ICT）では医師、看護師、臨床検査技師と共に週1回院内ラウンドを行っています。院内ラウンドでは主に消毒薬の使用状況や期限等の確認を行っており、各部署での感染防止対策が遵守できているかをチェックして院内環境の整備などに貢献できるよう日々取り組んでいます。また、AMR（薬剤耐性）対策の観点から、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）では、院内の広域抗菌薬等の使用状況を把握し、適正使用のために抗菌薬の変更等を検討して主治医へ提案しています。抗MRSA薬でTDM（治療薬物モニタリング）対象薬剤に関しては全使用症例でTDMを行っており、薬剤科にて血中濃度推移予測を行い、主治医へ適正な投与量を提案しています。

生活習慣病教室

糖尿病、腎臓病について
正しく理解して頂くために

患者さんやそのご家族等に、糖尿病とはどんな病気であるかを正しく理解して頂くために、週1回糖尿病について講習会を開催しています。医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士が講師を務めており、薬剤師は糖尿病治療薬とその安全使用について解説しています。また、腎臓病教室では、腎臓病とくすりについて一般の方にも分かりやすく説明を行っています。その他、栄養サポートチーム（NST）、褥瘡対策チーム等にも委員として積極的に参加しており、チーム医療の中で専門性を活かし、患者さんへの治療や指導、教育に力を入れています。

ポリファーマシー対策活動

薬剤の適正使用に対し、職能を發揮

高齢者の薬物有害事象の増加に、ポリファーマシーが関与している可能性が指摘されています。ポリファーマシーとは、単に服用する薬剤数が多いことではなく、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス低下等の問題につながる状態のことをいいます。当院では2020年9月より、主に整形外科入院患者さまを対象として、薬を多く服用しているご高齢の方、薬剤調整を希望される方に対し、その解消に取り組んでいます。毎週開催されるカンファレンスでは、多職種から構成されるメンバーの専門性を活かし、処方適正化の検討を行っています。

Exchange event

交流の機会が 盛りだくさん!!

年に一度、院内の職員でバーベキューをしていました（2019年まで）。参加人数が多く、毎年とても盛り上がっていました！スキー、温泉、観光などの院内旅行もありますよ！これらのイベントは中断されていましたが、そろそろ職員の間にも再開を待望する声が聞かれるようになりました。職員親睦が例年通りに行われるのも秒読みです。他にもJA山口厚生連病院対抗でソフトボール、ソフトバレーボール大会をやっています！院内スタッフだけでなく、他施設のスタッフと共に汗を流して交流を深めています！



病院対抗野球大会



役職員球技大会



役職員親睦球技大会



役職員球技大会

院内スタッフをはじめ、患者様に信頼され、
地域医療に貢献できるよう一層精進していきたいと思います。

薬学生向けの 奨学金貸与のご案内



対象者

薬科大学、大学薬学部（以下大学と総称する）に在学する者（入学決定者を含む）で、卒業後、JA山口厚生連の開設する病院において薬剤師として、その業務に従事しようとするもので、原則として大学の推薦を受けた本人の申請により承認された者。

奨学金の額および貸与期間

月額 **30,000円～50,000円** 所定の在学期間（最長6年）

誓約勤務期間

奨学金の貸与を受ける者は法定の資格取得後、奨学金貸与期間と同等の期間、JA山口厚生連の開設する病院に勤務するものとする。

奨学金の償還免除

奨学金の貸与を受けた者は、法定の資格取得後、JA山口厚生連の開設する病院に奨学金貸与期間と同等の期間継続勤務した場合には、奨学金の償還を免除する。

違約時の償還

- 1 奨学生が自己の都合により中途退学した時には、貸与した奨学金の全額を本人または保証人から一時に償還させるものとする。
- 2 奨学金を受けた者が誓約勤務期間を中断して違約退職した時は、所定の計算式により求めた奨学金の残額を本人または保証人から一時に償還させるものとする。

在学中の義務

奨学生は、毎学年終了後、学業成績証明書を厚生連に提出しなければならない。

奨学の中止

奨学生の学業不振、素行不良、その他奨学の趣旨にそわない行為があり、当初の目的を達成できないと認められる時は、奨学金の貸与を打ち切り、それまで貸与した奨学金を一時に償還させる。

当制度や採用についてのお問い合わせ

山口県厚生農業協同組合連合会

〒754-0002 山口県山口市小郡下郷2139番地
電話：083-973-3286 Email：yckrsom@ja-yckousei.or.jp

長門総合病院

〒759-4194 山口県長門市東深川85番地
電話：0837-22-2220 Email：info@nagato-hp.jp

周東総合病院

〒742-0032 山口県柳井市古開作1000番地1
電話：0820-22-3456 Email：info@hsp-shuto.jp

小郡第一総合病院

〒754-0002 山口県山口市小郡下郷862番地3
電話：083-972-0333 Email：info@ogoridaiichi.jp

薬剤師を目指す学生、既に薬剤師国家資格を取得されている方

奨学金返還支援制度のご案内

JA山口厚生連では、**薬剤師を目指す学生**や、既に**薬剤師国家資格を取得されている方**等を対象に、大学在学期間中に返還義務のある奨学金を利用している（又は利用していた）場合の、**返還支援制度**を設けています。



対象者



大学在学期間中に独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）等の貸与型奨学金の貸与を受け、奨学金の返還義務のある方で、正職員として当会に採用され、業務に従事する方（新卒者、既卒者で既に奨学金の返済が始まっている方。）です。但し、当会の奨学金を受けた方は対象となりません。

対象額等



奨学金返還支援の対象は月賦返還分のみ、支援する額は毎月の返還額です。ただし、月5万円を限度、支援総額は360万円以内となります。

支援期間



返還金額が360万円以上の場合には、360万円を毎月の返還額で除した月数（端数切捨て）となります。また、返還残額が360万円を下回る場合は、その金額を毎月の返還額で除した月数（端数切捨て）となります。ただし、毎月の返還額が5万円以上の場合には、いずれも5万円で除した月数（端数切捨て）となります。

支援停止及び終了



労務の提供が全くない月（休職など）については、支援停止となります。この場合、支援期間には含まれません。また、正職員の身分を失った場合（退職や、臨時職員への区分変更など）には、支援終了となります。

手続き



当支援制度を希望される場合は、採用内定後、奨学金返還支援金給付申請書、奨学金の借入総額と返還額が分かる書類を提出して頂きます。

当制度や採用についてのお問い合わせ

山口県厚生農業協同組合連合会

〒754-0002 山口県山口市小郡下郷2139番地
電話：083-973-3286 Email: yckrsom@ja-yckousei.or.jp

長門総合病院

〒759-4194 山口県長門市東深川85番地
電話：0837-22-2220 Email: info@nagato-hp.jp

周東総合病院

〒742-0032 山口県柳井市古開作1000番地1
電話：0820-22-3456 Email: info@hsp-shuto.jp

小郡第一総合病院

〒754-0002 山口県山口市小郡下郷862番地3
電話：083-972-0333 Email: info@ogoridaiichi.jp



山口県厚生農業協同組合連合会

山口県山口市小郡下郷2139番地

083-973-3286 (代表)

周東総合病院

山口県柳井市古開作1000番地1

0820-22-3456

E-mail : info@hsp-shuto.jp

長門総合病院

長門市東深川185番地

0837-22-2220

E-mail : info@nagato-hp.jp

小郡第一総合病院

山口県山口市小郡下郷862-3

083-972-0333

E-mail : info@ogoridaiichi.jp

